

6	
読	む
短歌を味わう	
〔知識・技能〕	
名	前

短歌とは、五七五七七の三十一音からなる定型詩で、千年以上にわたって受け継がれてきた日本の伝統的な詩の一種です。その特徴を理解して、情景や作者の心情を味わいましょう。

やってみよう

次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

<p>A 白鳥はかなしからずや空の青 海のをにも染まずただよふ 若山 牧水</p>	<p>B それとなく 郷里のことなど語り出でて 秋の夜に焼く餅のほひかな 石川 啄木</p>	<p>C 海恋し潮の遠鳴りかぞへては 少女となりし父母の家 与謝野 晶子</p>	<p>D 彼岸に何をもちむるよひ闇の 最上川のうへのひとつ 斎藤 茂吉</p>	<p>E 草わかば色鉛筆の赤き粉の 散るがいとしく寝て削るなり 北原 白秋</p>	<p>F 瓶にさす藤の花ぶさみじかければ たたみの上にとどかざりけり 正岡 子規</p>
---	--	--	---	---	--

一 Aの短歌は何句切れですか。

二 Bの短歌のように、音が基本の五音または七音より多いことを何と言いますか。

三 CとDの短歌に使われている表現技法を次から選んで記号で書きなさい。

C

D



四 Eの短歌の鑑賞文として最も適切なものを、次のア～ウの中から一つ選んで記号で書きなさい。

- ア 若々しい感傷が、色の鮮やかな対比で表されている。
- イ 若草の季節のけだるさが、少年が寝ながら色鉛筆を削る様子に表れている。
- ウ 病気の少年の姿が読者の胸をうつ。

五 Fの短歌の特徴を説明したものととして最も適切なものを、次のア～ウの中から一つ選んで記号で書きなさい。

- ア 想像した世界を感性的な言葉を使って表現している。
- イ 心情を印象深く表現している。
- ウ 目の前に見た景色をありのままに表現している。